

曙光（しょうこう）	吹田東高校 50期生 進路だより vol.7
	2023.11.28

## 1. 学年懇談会で頂いた質問

11/7(火)に本校で学年懇談会が行われました。そこで保護者から頂いた質問の中から全員に「知っておいてほしい」というものをここで解答させていただきます。

### ① 大学の学部が多すぎて、具体的に何を学ぶ学部なのかわからない。調べるにはどうしたらよいか？

近年、大学の学部・学科は多様化しており、名前をみただけでは何を学ぶのかわからないということがよくあります。また、同じ学科名でも大学によって学ぶ内容が異なるということもあります。

#### どうやって調べるのか

まずは自分(お子様)の興味がどこにあるのか、というところから始めるのが良いと思います。例えばプログラミングに興味があるなら『プログラミング 学部』と検索すると情報学部や理学部、工学部といった候補が出てきます。次の段階で、関西圏での進学を考えている場合は『関西 大学 ○○学部』と検索すると、その学部を持つ大学名が出てきます。後は大学のHPをみる、またはオープンキャンパスに行くことで本当に自分の学びたいことが学べそうかを確認するという流れになります。

その他の方法としては担任や進路担当の教員に直接相談する、という方法やWEBサイトの「逆引き大学辞典 WEB」というサイトを活用する方法もあります。「逆引き大学辞典 WEB」はなりたい職業や興味がある研究など様々な角度から大学を調べることができるWEBサイトです。

ただ、いずれにせよ重要なのは興味がある分野をなるべく早く見つけることだと思います。

### ② 文系の私学志望だが、共通テストは受けるべきか？ 受ける・受けないの判断はいつまでにすればよいか？

共通テスト（旧センター試験）は国公立志望の人が受けるもの、という印象がありますが私立大学を志望する場合受験する必要はあるのでしょうか。

結論を先にいうと基本的には『受けるもの』と考えておくほうが良いです。その理由としては

- ・共通テスト利用方式の選抜を多くの私立大学が実施している
- ・受けようが、受けまいが勉強することは（基本的に）変わらない

という理由が挙げられます。

#### 私立大学の共通テスト利用方式

関関同立や産近甲龍はもちろん関西圏の非常に多くの大学でこの入試方式が実施されています。共通テスト利用方式は大きく分けて、(i)共通テストの得点のみで合否を判定する方式と(ii)共通テストと大学の独自試験を併用する方式があります。

(i)の良いところとしては共通テストさえ受けておけば、複数の大学に出願する際に各大学の入試対策を個別にする必要がないということが挙げられます。

(ii)の良いところは得意科目を生かした受験ができるということです。1つ例を挙げると龍谷大学は大学の独自試験と共通テストを併用する入試を実施していますが、この方式の場合一部の学部では300点満点中200点を英語、国語、社会のうち(得意な)1教科で埋めることができます。

#### 勉強内容は変わらない

共通テストも大学の独自試験も基本的に普通の授業で学習する内容から出題されます。したがって入試勉強という点では、現時点で共通テストを受ける・受けないを決めたとしても、取る行動や学習内容は変化しません。

以上の理由から今の段階で共通テストの受験をしないという選択をすることはおすすめしません。最終的に決めるのは3年次の共通テストの出願時でも構わないと思います。

### ③ 大学入試では課外活動の取り組みが必要になると聞いたが、具体的にどのような活動を指しているのか？

近年、一般入試などの学力で選抜する方法に加えて、学力以外の観点からも選抜を行う大学が増えています。総合型選抜(旧AO入試)や自己推薦型入試がそれらの代表です。これらの方式で受験するときに重要なものとして挙げられる『課外活動』とは具体的にどのようなものなのでしょうか。

#### 課外活動とは

課外活動とは簡単にいうと学校での勉強以外の活動のことです。学校に関わる課外活動としては部活動や委員会、生徒会活動、オーストラリア語学研修などがあります。学校外の課外活動としては習い事であったり、アルバイト、大会やコンテスト、趣味活動、ボランティア活動などが例として挙げられます。

#### どの活動が入試に有利なのか

上記のような様々な活動の中で入試に有利なものはあるのでしょうか。この質問に正確に答えることは難しいです。というのも極論すれば『ある競技の全国大会で優勝』や『数学オリンピックで金賞』といった実績があれば入試で有利に働く可能性が高いと思われそうですが、現実的に考えればそのような人は殆どいません。また普段の部活動や個人で参加しているボランティア活動が入試の上で評価されない、ということもありません。

重要なのは『その活動で何を体験し、そこから何を学び、どう成長できたのか。またその活動をこれから(の大学生活)にどう活かしていくのか』がしっかりアピールできるかということです。つまり大切なのは活動そのもの以上に、その活動の中で自分は主体的にどう行動したのか・何を学んだのかをしっかりと言語化し面接で伝えることができるかだと思います。